

第 12 回米百俵賞特別賞受賞

(平成 20 年 6 月 15 日表彰)

## ホンジュラス国立演劇学校

(ホンジュラス国)



演劇「米百俵」をホンジュラス国内や中米の各国で上演し、世界に「米百俵」の精神を広め、国際親善に貢献した。

### ■受賞時プロフィール

平成 15 年 5 月、中米ホンジュラス各地で満員御礼の上演が続いた演劇「米百俵」。戊辰戦争の時代、越後長岡藩で生まれた故事が、時を越え、国境を越えて、ホンジュラスの人々を感動させた。この演劇を見事に演じきったのがホンジュラス国立演劇学校の教職員、生徒らである。

同国は、中南米における三大貧困国の一つで、日本をはじめ各国から経済援助を受けている国である。当時の大統領が国の発展のために重要なのは教育であると考えていた中、平成 14 年、在ホンジュラス日本国大使の竹元正美氏がホンジュラスの文化大臣に「米百俵」の故

事を紹介したことがきっかけとなり、国を挙げて演劇上演に取り組むことになった。

当時、同校の生徒は 30 人程度で、それぞれ大学や高校で学生として勉強したり仕事をしたりしながら、空いた時間に演劇を練習した。校舎は朽ち果てたようなあばら家で、校舎の修繕もままならない状態であった。舞台装置や衣装のための予算など望めるはずもなかった。生徒達は懸命に練習を重ね、役になりきるために、日本の歴史や文化、芸術、所作などを勉強した。日本で演劇「米百俵」の上演実績がある劇団「すわらじ劇園」を日本から招き、半年間演技指導も受けた。

各方面から協力の申し出があがり、舞台装置は日本の企業が製作、衣装や小道具は日本大使館の展示物や日本から譲られたものを使用、手作りのものもあった。青年海外協力隊員は琴の生演奏を担当した。日本から寄附金も寄せられた。

多くの人々の善意と熱意によって実現した演劇上演は大成功を収め、同国各地で80回の上演を重ねた。また、中米コスタリカ、ニカラグア、エルサルバドルでも各2回ずつ上演されて絶賛を受けた。上演にあたっては、各国の政府関係者や文化人、学生、一般市民など多くの人々が鑑賞した。

現在、同国では「米百俵」の名を付けた学校を100校建設する計画が進んでおり、すでに完成した校舎では、青年海外協力隊員の呼びかけにより教員や生徒らが米百俵劇を企画・上演し、教育の重要性を地域に広めるための活動が行われている。

(注) 平成16年に始まった「米百俵学校」と名付けられた学校改修は、平成28年に100校を達成。令和2年現在、156校を数えるまでになっている。



▲平成15年 ホンジュラスでの「米百俵」公演の様子